

平成 22 年度 教養ゼミ(初年次教育科目)

実 施 状 況 報 告 書

経済学部	p1
人間文化学科	p2-3
心理学科	p4
メディア情報文化学科	p5
電子・ロボット工学科	p6
建築・建設学科	p7
情報工学科	p8
機械システム工学科	p9-16
生物工学科	p17-21
生命栄養科学科	p22-23
海洋生物科学科	p24-25
薬学部	p26-28

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 経 済 学 部 】

■担当者氏名（代表）

島 敏 夫

「教養ゼミ」は大学教育の入り口となる重要な科目の 1 つと考えており、経済学部では各教員がそれぞれの観点から教養ゼミを行ってきた。しかしながら、教養ゼミが共通教育の一環として実施されるようになってからは、それに合わせる内容となった。実施内容・方法については教務委員が一定の指針を示したが、全てを強制するものではなく、学生の質・クラスの雰囲気などに応じて最終的には各教員が決定する裁量を与えている。教務委員から示されたテキストには次のようなものがある。

★世界思想社編集部編『大学生学びのハンドブック』

★慶応大学の教員による『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』

★塚谷雅彦著『大学生の生き方・考え方』

★佐藤智明他著『大学 学びのことはじめ—初年次セミナーワークブック』

教養ゼミのクラス分けは、以前は各教員により内容に差異があったので、内容を提示して学生に選択させる方法を取っていたが、現在は内容がほぼ統一されているので、学生番号により機械的に配属を決めている。特に問題がないが、この方法では留学生は留学生だけのクラスになってしまい、日本人学生と留学生との交流の面からは問題があるという意見もある。また、全教員で担当し、一部を各自の裁量に任せる現在のシステムでは、上手く運営できているゼミと、あまり上手くはいっていないゼミと、ゼミ間のばらつきが大きくなっているようである。

従って、それらの点を改善すべく、平成 23 年度からは、全体を 1 つの教養ゼミとし、必要に応じて、SGD（スモールグループディスカッション）を取り入れる方式に変更する。

具体的な内容としては、始めに「大学生活とは」と題して、教務委員・学生委員が講義形式で話しをする。そこでは、授業の受け方など高校までとは違う点など、詳しい話をする。さらに、図書館の利用方法などを図書館員の方々にも協力をして戴き、効果的な利用方法を学生に理解させ、4 年間、図書館を大いに活用してもらうための素地を作る。そして、なんと言っても、大学で勉強をするには文章理解が非常に大切であるので、このゼミでは文章理解・文章作成にも力を入れる。教材を使って、文章の要約を作らせ、その文章の内容の評価を行わせる。その評価の部分では、SGD を行う予定である。これにより、学生相互の関係を深めるとともに、受け身で終わりがちな大学生活を能動的なものに変える効果があると考えられる。

現時点では、この方法が一番良いと考えているが、23 年度の結果をもとに PDCA サイクルで、さらに良いゼミ運営に仕上げていきたいと考えている。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 人間文化学部 人間文化学科 】

■担当者氏名（代表）

青 木 美 保

■教育目標および授業のねらい

学問の基礎とともに、実学的な能力や国際的な見識、創造力豊かな人間性を備えた学生の育成を目標とする学科の人材育成像に則り、教養ゼミでは、受講生たちに教員の専門等に関連した様々なテーマについて研究・討論させ、的確な判断力・行動力の向上を図ること、および、少人数での授業体制の中で、専門の内容を通して、教師と学生、学生相互の信頼関係の構築を目指している。

■前期実施内容（各回の内容等）

学生・教員を 2 グループ(教員 4 人ずつ、学生 20 人程度)に分け、それぞれのグループで教員 4 人が各 3 回程度担当してオムニバスで授業を展開する。

その最初と最後の授業は、各グループの教員全員が集まり、授業全体の目標の共有や成果についての検討を行って、授業の目標達成を徹底させている。

授業の学習成果は、「幅広い教養を修得するための基礎力(読む力・書く力)を身につけること、自ら発する問題意識とそれを解決する創造的な思考力を身につけること」である。

授業の概要は、シラバスに記す通りであるが、2 グループで共通に

- 1 回 教養ゼミとは(全教員)
- 2 回～4 回 大学での学びについての導入
- 4 回～14 回 各教員の専門を通しての導入ゼミ(各教員)
- 15 回 充実した大学生生活とは(全教員)

学生の興味・関心による主体的な問題意識の開発、それについての文献調査などの問題追究の過程の体験、調査結果をまとめる(書く)こと、それを発表すること、他者の発表を聞いてコメントすること、など 2 年生以降の授業に関わるプレ体験を主な内容とする。

■前期教養ゼミの成果

授業の方法について学科内での議論があり、今年度の達成度について独自のアンケートを実施した(添付、回答率 71% 29 人)。その結果、先生との人間関係については、よくできた、まあまあできたが合わせて 22 人、仲間との人間関係は、よくできた、まあまあできたが合わせて 28 人、大学での勉学に意欲がわいたかについて、わいたが 26 人、教養ゼミの授業で何らかの力が身に付いたと答えた者は 26 人、どんな能力かを聞いたところ、発表力が 10 人、聞く力が 9 人、読む力 3 人という結果であった。自由記述においては、発表に自身が持てるようになった、もっと発表をやってみたいなどの積極的な意見が見られた。全体として、導入教育のねらいはある程度達成されたと言える。

■問題点、改善策、対応等

アンケートで、教員との関係が出来ない者 7 名、仲間との人間関係が出来ない者 1 名、勉学の意欲がわかなかった者 3 名となっており、これら特定の学生への対応が必要である。

「教養ゼミ」の授業アンケート

人間文化学科教育システム導入委員会

人間文化学科では、演習授業の内容を検討しています。2010年前期の教養ゼミの授業について、下記の質問に答えて下さい。

1. 先生との人間関係はできましたか。

①よくできた 3人 ②まあまあできた 19人 ③あまりできていない 7人

2. 1で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。具体的にこたえて下さい。

・先生と色々と話せるようになった。など

3. 1で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。具体的にこたえて下さい。

・会話
・特に質問するようなことがなかった。

4. 仲間との人間関係はできましたか。

①よくできた 13人 ②まあまあできた 15人 ③あまりできていない 1人

5. 4で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。具体的にこたえて下さい。

・一緒に遊びに行ったり、課題をしたりしている。など

6. 4で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。具体的にこたえて下さい。

7. 教養ゼミを受けて、大学での勉学に意欲がわきましたか。

①強くわいた 7人 ②まあまあわいた 19人 ③あまりわからない 3人

8. 教養ゼミの授業で、大学内でのマナー(あいさつ、礼儀等)が身に付きましたか。

①よく身に付いた 3人 ②まあまあ身に付いた 15人 ③あまり身に付かない 0人

9. 教養ゼミの授業で何らかの力が身に付きましたか。

①よくついた 5人 ②まあまあついた 21人 ③あまりついていない 3人

10. 9の質問に「身に付いた」と答えた人について聞きます。

どのような力が身に付いたと感じていますか。

①発表する力 10人 ②話を聞く力 9人 ③読む力 3人
④コミュニケーション力 10人 ④回答 4人

11. 「教養ゼミ」について、自由に感想を述べて下さい。

・先生がどのような趣味でどのような人柄なのかがよくわかる。
・周りの人がどのようなことを考えているのかがわかる。
・コミュニケーション能力を高めるため、こういう場をさらに作ってほしいと思った。
・発表をもっとやってみたい。
・発表することがとても苦手だったが、少しは自信を持ってできるようになった。 など。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 人間文化学部 心理学科 】

■担当者氏名（代表）

橋本優花里（1 年担任・取りまとめ係）

■ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数 5、ゼミの学生数各 9 名

<前期>

■前期実施内容

テーマ：ピア・サポート訓練

主な内容：ピア・サポートとは／自己紹介ゲーム、自分自身について知ろう、
一方通行と双方向のコミュニケーション、傾聴について／聴き方のロールプレイ、
話し合ってみよう／大切なものランキング、ストレスへの対処、まとめ
（その他に、19 号館案内、PC 室案内、図書館案内を実施）

■前期教養ゼミの成果等

サポートのためのスキル（傾聴、コミュニケーションなど）の訓練を行なった。
学生同士の関係を築き、互いに思いやりをもって支え合う雰囲気を学生の間に高めていくことができた。

<後期>

■後期実施内容

教養ゼミは前期のみ開講だが、（学年担任だけでなく）各ゼミ担当教員が後期も引き続き、自分が担当した学生との連絡や履修上の指導に関わっている。

■今後の課題

教養ゼミでピア・サポートを受けた学生たちが翌年度に次の 1 年生グループのファシリテーターになるような仕組みを考案中である。

■特記事項

今年度は、これまで毎回配付していたレジュメをまとめ、冊子（ピア・サポート訓練のテキスト）を作成した。今年度から、人間文化学部の 3 学科の新入生合宿オリエンテーションと初年次教育（教養ゼミ）でピア・サポート訓練を導入しており、テキストを使用した。来年度も継続の予定である。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 人間文化学部 メディア情報文化学科 】

■担当者氏名（代表）

渡 辺 浩 司

■ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数: 6 [三宅(6)、田中(6)、渡辺(5)、内垣戸(5)、飯田(6)、杉本(5)]

ただし、()内は学生数

■前期実施内容（各回の内容等）

昨年の反省のもとに学科全員の学生対象の全体会と全教員のゼミに分かれて行う個別ゼミ活動を行った。

個別ゼミにおいて順番の入れ替えはあったものの、おおよそシラバス通り実施した。

ただし、各ゼミにおいて

- ・各週幾人かの学生を当番にしてゼミを進めた。
- ・心理学科に協力を依頼し、仲間作りのための『ピア・サポート』プログラムをゼミに取り入れた。
- ・情報リテラシーの一環として、初歩的なプログラミングの学習を導入した等、独自の内容を織り交ぜての実施となった。

■前期教養ゼミの成果等

ゼミのねらいである、受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、メディアや情報に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。さらにゼミを少人数編成で行った結果、「仲間作り」という点においても非常に有効であったと思われる。

■問題点、改善策、後期での対応等

前年度と同様に後期は学科の専門科目である基礎演習などで引き続き初年次導入教育およびスキル教育を実施する。

今年度の問題点としては、仲間作りには利点であった少人数編成であるが、大人数の前でのプレゼンテーションや、グループディスカッションなどの実施は困難であり、これらは学科全体でまとまって実施したほうがより効果的であると考え、全体活動も行ってきた。この点については来年度以降のさらに実践を積んで、検討してゆきたい。また、学生一人一人がより具体的にキャリア形成を意識づけるかという視点を取り入れた取り組みも検討する必要がある。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 電子・ロボット工学科 】

■担当者氏名

(代表：沖 俊任)

安藤 詔生、栗延 俊太郎、三宅 雅保、三谷 康夫、田中 聡、香川 直己、沖 俊任

■実施内容

(全 14 回)

- 1 回目 (4/14) 概要説明、福山大学の歴史と特徴
- 2 回目 (4/21) ノートの取り方、図書館訪問、メール、自己紹介
- 3～7 回目 (4/28、5/12、5/19、5/26、6/2) 小グループゼミ
- 8～11 回目 (6/9、6/16、6/23、6/30、7/7) ロボット競技会の企画と運営
- 12 回目 (7/7) 定期試験対策
- 13 回目 (7/14) 交流会：先輩からのアドバイス
- 14 回目 (7/21) 三蔵祭準備

■教養ゼミの成果等

- 初回では大学や学科に対して自信や愛着を涵養するために、初回到福山大学三十年史（抜粋）などを利用して、大学と学科の歴史や特徴について学習を行った。
- 2 回目では基礎スキルとしてのノートの取り方やメールの使い方について指導し、自己紹介や図書館訪問と図書館職員による使用方法説明も併せて行った。
- 小グループゼミで数学基礎の学力底上げを行い、比較的学力のある学生には「ものづくり」の実習を行った
- H21 年度に教養ゼミで製作したロボットを使い、学生を 2 グループに分けてミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。この中で、ロボットの操作方法のみならず、ブレインストーミングや KJ 法などを用いた企画、パワーポイントを用いた企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの作業方法なども学習した。事後にはレポート作成も行った。
- 自己管理の練習として定期試験対策を行った。各自学習の進捗状況に対して自己分析を行い、定期試験終了までのカレンダーを作成して具体的にすべき事項や時期などの整理を行った。
- 交流会では、該当時間に授業のない学生（上級生）と教員も集合して情報交換を行い、縦の繋がりにおいても親密度が高まった。
- 学科の行事として三蔵祭で出展を行うために、上級生を含めて企画を行った。教養ゼミの授業上での活動はこの 1 回のみだが、夏季休業後も活動は継続して三蔵祭で出店を行った。
- 三蔵祭の出展準備と並行して地域（松永町）のイベントであるゲタリンピックの準備と出展を行い、地域貢献も行った。
- 多くの課題で計算機室を用いており、授業時間以外も例えばロボット競技会の準備などで放課後に計算機室を利用することを通して、学生間（同学年のみならず上級生とも）の交流に有効に働いている。

■問題点、改善策、後期での対応等

基礎スキルとしての学生生活における事務処理や一般常識について各活動を通して適宜指導したが、まとまった指導は十分に行われていないため、指導を受けた度合いと内容に個人差がある。個々の事象の全体へのフィードバックの方法に工夫が必要と思われる。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 建築・建設学科 】

■担当者氏名（代表）

水 上 優

■実施内容

工学部建築・建設学科では、22 年度の初年次教育を前期「建築学概論」後期「教養ゼミ」として実施した。

「建築学概論」は「教養ゼミ」の前段として、建築を学びはじめる学生に対し、非常に幅の広い建築学への興味を引き出すために、建築系全教員がそれぞれの専門をふまえ、建築分野の基本的な課題、関心事や最近の話題などを輪講した。日程と担当教員は表 1 のとおり。

表 1：建築・建設学科（建築コース）建築学概論日程及び担当者一覧

4/13	4/20	4/27	5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20
火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火
イントロ	水	小	酒	藤	松	大	宮	古		寺	鎌	中	まとめ
水上	上	野	井	原	本	島	地	江	南	井	田	山	水上

「教養ゼミ」は少人数で行うゼミナール形式で、教員と数人のゼミ生による意見交換の場としての役割が重視された。前半は、直面するキャンパスライフを快適に送るためのイントロダクションであり、『大学学びのことはじめ』を統一テキストとして活用しつつ、大学生活を有意義に送るための心構えや図書館等の施設の効果的な利用方法などを身につけ、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、資料収集能力などの向上を図った。後半では、これらの能力の実践機会として、「建築学概論」で培った興味をもとに、ゼミごとのチームを作り、学生が主体的に建築の専門的な学習を行ない、パワーポイントによる成果発表会を行った。

■評価

前期「建築学概論」では、担当教員が毎回課題を提示し、レポートを提出させた。レポートは規定の用紙を使用した。各担当者が各学生ごとに「文字数」「表現力」「熱心度」「態度」の項目について 5 段階評価を行い、その総合結果を評価として採用した。各学生 1 人ひとりの興味の方向や学習態度を把握することができた。

後期「教養ゼミ」では、最終回（1/25）に、パワーポイントによるゼミごとの成果発表会を行った。プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、資料収集能力の実践の場として、各ゼミ 3 名程度が 1 つのチームとなり、調査研究や発表に関して主体的に役割を分担し、全体に向けて発表した。

■今後の課題

前期では、学生 1 人ひとりのデータについて、教員相互間でさらに有効的に活用する方法の検討が課題になろう。

後期では、発表会におけるチーム（ゼミ）間のコミュニケーション（ディスカッション、ディベート）の誘導方法の検討が課題になろう。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 情報工学科 】

■担当者氏名（代表）

新 谷 敏 朗

■ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：1 学生数：38名

■前期実施内容（各回の内容等）

教科書「大学学びのことはじめ」に従い14回行った。

友達作り、自己紹介、カリキュラムの理解とシラバスの確認、図書館の訪問、大学祭の紹介、受講の心得、ノートの取り方、文章の要約と作文、口頭発表、マナー、手紙の作成、クリーンアップ（清掃活動）、履歴書の作成

■前期教養ゼミの成果等

大学生として身につけておくべき基本的な知識を習得できた。具体的には、文書作成や口頭発表といった技術の基本を学んだ。また、マナーや礼儀といった社会生活の基本や、清掃活動を通して環境問題への意識を持つことができた。更に、履歴書の作成を通して自分自身を分析し、今後のキャリアデザインの基礎とすることができた。

■問題点、改善策、後期での対応等

昨年に引き続き、推奨教科書「大学学びのことはじめ」に従って行だったが、少人数のゼミ形式ではない形で実施した。教科書の内容は非常に基本的で重要であるので前項で述べたように成果はあがっている。ただし、「教養ゼミ」という名称とは合致していない。来年度は、少人数のゼミ形式も取り入れる方向で検討している。情報工学科の授業としての教養ゼミは前期のみなので、後期は教養ゼミとしては実施していないが、大学祭などの課外授業を通して、初年時教育を続けた。

■その他

昨年度の報告でも述べたが、すべての学部・学科が推奨の教科書を使用しているわけではなく、教養ゼミの内容は学部・学科によって異なっているようである。教養ゼミを福山大学の特徴としてアピールするためには、教科書に従うなどして、ある程度統一したほうが良いのではないかと考える。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

坂 口 勝 次

■ゼミの学生数

学生数：6名（全員外国人留学生）

■今年度実施内容（各回の内容等）

第1回 オリエンテーション（授業のねらいと進め方）

第2回 自己紹介（文章でまとめる）

第3回 自己紹介（口頭で伝える）

第4回 大学での学習方法（受講について）

第5回 大学での学習方法（ノートの取り方）

第6回 マナーについて

＜探索研究＞ 学生による自主テーマ

自動車用エンジンの新技術、冷却技術、ロータリーエンジン、ハイブリッドシステム

第7回 テーマについての情報収集（インターネット利用など）

第8回 背景、原理・仕組みについてのレポート作成・口頭発表

第9回 長所と短所（問題点）のレポート作成・口頭発表

第10回 問題解決方法の提案（レポート提出・SGD）

第11回 問題解決方法のまとめ（レポート提出・SGD）

第12回 探索研究発表の準備

第13回 探索研究発表（プレゼンテーション）

■今年度教養ゼミの成果等

- （1）入学後早期に外国人留学生が、大学での学習スキルや日本のマナーについて理解を深めることができたと思われる。
- （2）具体的な到達目標を掲げ、探索研究成果としてレポート作成と口頭発表を行った。特に、授業の最初に具体的な到達目標を明確にすることによって、学生の集中した良い学習態度が持続的に得られた。
- （3）探索研究によって機械工学の興味・関心をさらに喚起し、学習意欲の向上に役立ったと思われる。
- （4）SGDにおいて活発な討論ができた。
- （5）プレゼンテーションの内容と技法について指導し、学生相互評価も行って自己評価を促した。

■問題点、改善策、来年での対応等

- （1）探索研究の情報収集・分析に時間がかかるので、十分理解した上で整理をするための時間がもう少し必要であり、やり残した分は宿題となった。テーマを絞り、分業体制（役割分担責任制）で行うことも検討する必要がある。
- （2）探索研究において、初年次のため専門知識が不足するので適宜補足説明を行ったが、テーマに関するアイデアの創出や問題解決方法の提案を促すため、参考となる資料の提供とその解説やヒントとなる助言も場合によっては必要と思われる。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

靄 崎 展

■ゼミの学生数

学生数：6名

■今年度実施内容（各回の内容等）

テーマ：EXCEL で工学問題を解く

第1回：ゼミ内容の説明、取り組み方

第2回：EXCEL 基本操作

第3回：EXCEL 基本操作

第4回：物体の滑り運動を考える（物理法則の復習、EXCEL の利用法）

第5回：プレゼン資料作成（パワーポイントの使い方）

第6回：プレゼン、プレゼン評価・指導

第7回：遅滞者プレゼン、プレゼン評価・指導

第8回：自動車の停止距離を考える（物理法則、計算法、結果表示法、自由考察）

第9回：プレゼン資料作成、考察助言

第10回：プレゼン資料作成、考察助言

第11回：プレゼン、プレゼン評価・指導

第12回：プレゼン、プレゼン評価・指導

第13回：全体のまとめ、感想文作製・提出

■今年度教養ゼミの成果等

（1）考える習慣を身につける。

（2）考えたことをどのようにして発表するか。

（3）実際に発表すること、その改善点。

これら一連のプロセスを、ある程度理解できたと思う。

■問題点、改善策、来年での対応等

能力の個人差が大きいため、ゼミの同時進行は容易でなかった。

しかし、丹念に個人指導を行う以外に方法はない。

ゼミ内容を低レベル化すると興味を失う学生もいるので、そのようにはしない方針である。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

布施 守 雄

■ゼミの学生数

学生数：5名

■今年度実施内容（各回の内容等）

- | | |
|---------------------------------------|------------------|
| 1) 自己紹介の仕方（テキスト ^(※1) 使用） | (※1) 大学 学びのことはじめ |
| 2) ゼミの友達を知ろう（テキスト ^(※1) 使用） | 佐藤 智明 他 編 |
| 3) 図書館の使い方（図書館員から説明を受けた） | |
| 4) 伝える力を培う（テキスト ^(※2) 使用） | (※2) 伝える力 |
| 5) 文章力をアップする（テキスト ^(※2) 使用） | 池上 彰 著 |
| 6) わかりやすく伝える（テキスト ^(※2) 使用） | |
| 7) 自分のアピールポイントをまとめて文書化する | |
| 8) 各々のアピールポイントを公表して批評し合う | |
| 9) ～ 12) | |
| 自動車のコンポーネントの歴史を調べて、レポートに文書化する | |
| 13) 各自のレポートを発表して批評し合う | |

■今年度教養ゼミの成果等

- ・前半は大学生生活に慣れるため茶話会的な形で進めて交流を図ったので、ゼミ仲間同士が比較的仲の良い友達となった。
- ・中盤にコミュニケーション力を養うために、テレビ等で人気の池上彰氏の著書を用いて話を進めたので、レポートの発表などにその効果があった。

■問題点、改善策、来年での対応等

- ・基本的には、今年のやり方を踏襲したい。
しかし、レポートにまとめるテーマについては、自動車に限らず広い分野を対象にすることも考える。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

野 西 利 次

■ゼミの学生数

学生数：7名

■今年度実施内容（各回の内容等）

- 1～3回：自己紹介、授業、学生生活等の説明
- 4回以降：一般常識、SPI の演習問題および解説

■今年度教養ゼミの成果等

一般常識や SPI に対する能力向上が就職活動時に重要となることを理解させた。
ゼミの前半は問題を解くのに時間を要したが、後半では要領を得て短時間で解答するようになった。

■問題点、改善策、来年での対応等

特に無し

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

真 鍋 圭 司

■ゼミの学生数

真鍋教養ゼミ（式に親しもう）7人

■今年度実施内容（各回の内容等）

「式に親しもう」というテーマで、大学の授業に抵抗無く入れるよう高校数学の復習のような内容を行った。はじめの数回は自己紹介、大学と高校の違い、心構えなど、テキストに沿って行った。その後、高校の数学で、機械システム工学科として必須項目である微分などの演習問題を毎回行った。問題はグループで考えることも行い、コミュニケーションの場としても活用した。問題の解答は各自で黒板に書いて発表させた。

■今年度教養ゼミの成果等

導入教育という意味で、高校数学の復習ができたと思われる。数学の得意な学生と、不得意な学生の混じったクラスであったが、お互い教えあったりして、コミュニケーションの場として活用できたように思われる。

■問題点、改善策、来年での対応等

各自が問題の解答を黒板に書いて、発表させたが、解答だけの解説に終わってしまった。考えた過程などをうまく説明させ、プレゼンテーションの能力を身に付けさせるという点については十分にできなかった。次年度はそこを改善したい。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

木 村 純 壮

■ゼミの学生数

学生数：7名

■今年度実施内容（各回の内容等）

1. 自己紹介の方法，グループディスカッション，自己紹介の原稿作成
2. 自己紹介実施，反省ディスカッション
3. スピーチの方法
4. 就職関係スケジュール説明，就職試験・入社試験，
5. SPI 適性検査（理科・物理関係問題）演習
6. 時事問題
7. 進路選択，就職，将来の希望・仕事，資格取得
8. インターネット・メールによる課題レポート提出
9. 学習方法・勉強方法 受講の心得，授業の聞き方，ノートの取り方
10. 機械システム工学の基礎 物理学・力学 ニュートンの運動方程式
11. 加速度について
12. 機械システム工学の基礎 数学 微分 公式
13. 将来計画について
14. 将来計画のプレゼンテーション 感想発表 ブーメランの原理説明

■今年度教養ゼミの成果等

初年度教育として，基礎力の育成を目標に，広範囲の話題を扱いながらゼミを実施した。
学生も，ほぼ全員，それぞれのテーマに関心を持って積極的に取り組んだ。

■問題点、改善策、来年での対応等

スライドを用いたプレゼンテーションを導入する（コンピュータ環境面で困難）

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

小 林 正 明

■ゼミの学生数

学生数：7名

■今年度実施内容（各回の内容等）

- 第1回 導入説明
- 第2回 モノづくりに必要なこと・レポートの書き方
- 第3回 紙トンボの製作1（調査）
- 第4回 紙トンボの製作2（試作）
- 第5回 紙トンボの製作3（発表・レポートの作成）
- 第6回 紙からくりの製作1（調査）
- 第7回 紙からくりの製作2（試作）
- 第8回 紙カラクリの製作3（製作）
- 第9回 紙カラクリの製作4（発表・レポートの作成）
- 第10回 ペーパーパラシュートの製作1（調査）
- 第11回 ペーパーパラシュートの製作2（試作）
- 第12回 ペーパーパラシュートの製作3（発表・レポートの作成）
- 第13回 折り紙ヒコーキの製作1
- 第14回 折り紙ヒコーキの製作2・まとめ

■今年度教養ゼミの成果等

本年度の教養ゼミは、与えられたテーマに従って調査・試作を行いながらモノづくりを実施した。ただ単にモノづくりを実施するだけでなく最終的な発表・レポートの作成を行った。受講生は、創意工夫することの大切さを学習することが出来た。

■問題点、改善策、来年での対応等

本年度は、4つのテーマについて学習を行った。各テーマについての学習時間が少なく充分学習することが出来なかった。次年度はテーマを減らしより深く学習する事とする。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 機械システム工学科 】

■担当者氏名

中 東 潤

■ゼミの学生数

学生数：7名

■今年度実施内容（各回の内容等）

「大学学びのことはじめ」をテキストとして使用し、その内容を1～9回まで実施した。
その間、自己紹介書（履歴書）の書き方やスポーツ材料に関するリサーチとそのプレゼンテーションを演習形式で行った。10～13回はスポーツ材料の最新事情について解説し、さらに今後のスポーツ材料のありかたについて学生と議論した。

■今年度教養ゼミの成果等

最終回に本ゼミを通じて得られたこと等を書いてもらったが、その内容を総括すると、学生にとっては有意義な学生生活の過ごし方について考えるきっかけになったと思われる。

■問題点、改善策、来年での対応等

学生が演習として行った自己紹介書の書き方やプレゼンテーションについて、その内容を吟味する時間が十分にとれなかったので、時間配分を改善していく必要がある。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 工学部 生物工学科 】

■担当者氏名（代表）

原 口 博 行

■教養ゼミの目的

本学科の教養ゼミでは、ゼミ生と教員間の双方向コミュニケーションを図る場として、専門分野の教養への導入意識の高揚とともに、社会的教養用の拡充、人間的素養の研磨を目標とする。大学入学直後における様々な提言、スポーツ大会等による 1 年次生と教員・先輩学生との親睦、専門外の書籍等を基材とした、そのテーマに基づいた対話形式のコミュニケーション、大学祭の学科企画などを行う。その過程で、様々な視点から大学生として相応しい物事の観かた・事象のとらえ方・思考の転換・意思疎通の手法などを磨ききっかけとする。さらに、より有効的な大学生活への導入・ステイタスの確立、また、次学年から卒業までに続く継続的意識変革に役立つよう運営する。

■ゼミ数とゼミの学生数

33 名（後期は 1 名退学により 32 名）

8 ゼミ（生物工学科の研究室数に相当）

各ゼミの学生数は 4 もしくは 5 名

各ゼミの担当教員は、チューターとして学生にかかわる。

■実施内容（各回の内容等）

<前期>

オリエンテーションで

入学時オリエンテーションの際に教養ゼミの趣旨について簡単に説明。

1 回目 「教養」というもの

所謂大学生たるものが身につけるべき教養とはどのようなものかをこの時間の担当教員により概説。

一例として、人名や諺について、どの程度の常識を有しているかを確認。

たとえば、「目から（ ）」は目から鱗であるが、あるゼミ生は「目からビーム」。では、何故「目から鱗」というような表現ができたのかを討論、など。

2 回目 チューターについて

チューター制の説明。

チューターのグループ（各ゼミ）でジャンボカボチャを栽培し、大きさを競うことを説明。

教養ゼミで行いたいことは何か、話し合い。・・・「逃走中」、「ソフトボール」など

3 回目 大学という組織について

大学というものは、これまでの高等学校などとはその組織が大いに異なり、学生はそれに順じて諸手続きや学校生活を送らなければならない。また、履修科目の選択制や授業科目のカテゴリーなども大学特有の制度である。それらのことに関する解説。

4 回目 巨大かぼちゃ

ジャンボカボチャを栽培するため、土壌の整備をゼミグループごとに行う。

この日以外にも適宜作業

5 回目 巨大かぼちゃ

ジャンボカボチャの苗をゼミグループごとに移植。

6回目 カンケリ大会

1号館噴水広場にて缶蹴り・ケイドロ(警察と泥棒)を行い、大いに盛り上がった。

7回目 挨拶について

「お疲れさまでした」などの挨拶表現を考察・討論。

ジャンボカボチャ栽培で用いた農薬「オルトラン」の作用機作を解説。

8回目 学生生活について

入学後ほぼ2カ月過ぎたところで、今一度、学生委員の教員より学生生活についての留意点を確認し、質問事項などを受け付ける。

9回目 生物工学科の歴史

所属する学科の理念とその開設から現在に至る道のりを知り、大学で己のとるべきスタンスを築く一つのきっかけを与える。

10回目 最近気になる世間の話題

時事問題で関心のある事柄をアンケート調査。 添付資料1

FIFA ワールドカップについて・・・FIFA とは何の略号か
(資料配布) 南アフリカの人種問題
国家とスポーツ など

11回目 常用漢字196字追加

追加された196字を読むことができるか(資料配布)。

前回のアンケート調査の集計をもとに、討論。

12回目 五節句について

「七夕」の日であるので、五節句のいわれについて解説し、意見交換。

四字熟語から人生観・恋愛観を知る(アンケート) 添付資料2

学生生活についてのアンケート。 添付資料3

13回目 祝日について

「海の日」にちなんで、日本の祝日について解説し、意見交換。

「読書力は対話力」(資料配布)について、討論。 ⇒ 今読みたい本は(発表会)

どのようなメディアから情報を得るかについてのアンケート。

14回目 前期を終えるにあたって

大学生活半年はどうであったか意見交換。

大学の定期試験について。

「生物学Ⅰ」の講義に関するビデオを見る。

<後期>

15回目 勉強カラオケ理論

「歌いたくない奴に歌わせるな、勉強したくない奴にさせるな」(資料配布) 意見交換。

「船が座礁し、5人が無人島に・・・」ある企業が管理職登用試験のディベートに用いた課題で討論。

夏休みに〇〇〇〇をしました。(発表会)

16回目 最近気になる世間の話題

時事問題で関心のある事柄をアンケート調査。

その内、円高問題・イチロー選手の連続200本安打・白鵬の連勝記録・中国漁船問題について討論。

「寝かせる」ということ(資料配布) 意見交換。

17回目 大学祭準備

大学祭学科企画に関して、キャンドルのラッピング・紙花の作成。

18回目 大学祭準備

大学祭学科企画に関して、アロマキャンドルの作成。

19回目 大学祭準備

大学祭学科企画に関して、会場のセッティング。

20回目 「祭」について

大学祭に関するアンケート調査。

「天才と凡才の差が激しいのは、アメリカより日本の大学」(資料配布) 意見交換。

21 回目 三蔵五訓・福山大学の歌

自校の建学の理念を知り、校歌を愛する。

三蔵五訓の言わんとするところを解説、全員で唱和。

福山大学の歌詞を解説、全員で合唱。

22 回目 問題をつくろう

「面白さを作り出すのは自分である」(資料配布) 意見交換。

23 回目 化学実験の結果報告会

24 回目 漢字の表現について

「見る」と「観る」、「聞く」と「聴く」、「計る」と「量る」などの表記の異なる表現を探し、それらの違いについて意見交換。

25 回目 教務について

本年を終える前に、今一度、教務委員の教員より大学での履修・学習について、留意点・達成度などを確認し、質問事項などを受け付ける。

26 回目 私の学生時代

若手教員により、自身の学生時代やこの分野を志したきっかけなどを講演。

27 回目 2010 年の 10 大ニュース

昨年の日本・世界の 10 大ニュース(新聞発表)について意見交換。

今年の抱負を書き初め。

28 回目 英語について

「英語の公用語化は是か非か」(資料配布) 意見交換。

「学生自己評価アンケート」

29 回目 最終回

「三蔵五訓・福山大学の歌」の試験

教養ゼミに関するアンケート **添付資料 4**

大学初年度を終えるにあたっての感想。

■前期教養ゼミの成果等

29 回目のゼミでのアンケート結果の一部(資料 4)を添付。

ゼミ生アンケートによると、話題として取り上げた内容は、ほとんどの課題について 8 割以上の適切度が得られた。

ゼミ生アンケートによると、社会情勢を知る必要性、己の見聞に偏りがあること、などを感じ取った。

ゼミ生アンケートによると、

本教養ゼミに対する満足度は「大いに満足した」30%、「まあまあ満足した」63%。

■問題点、改善点、後期での対応等

「4 年間を通しての全カリキュラムから見た生物工学科」

「卒業後にはこのような進路選択がある」

「戦後の大学の教養主義」

「メディアリテラシーについて」

などについて取り上げたかった。

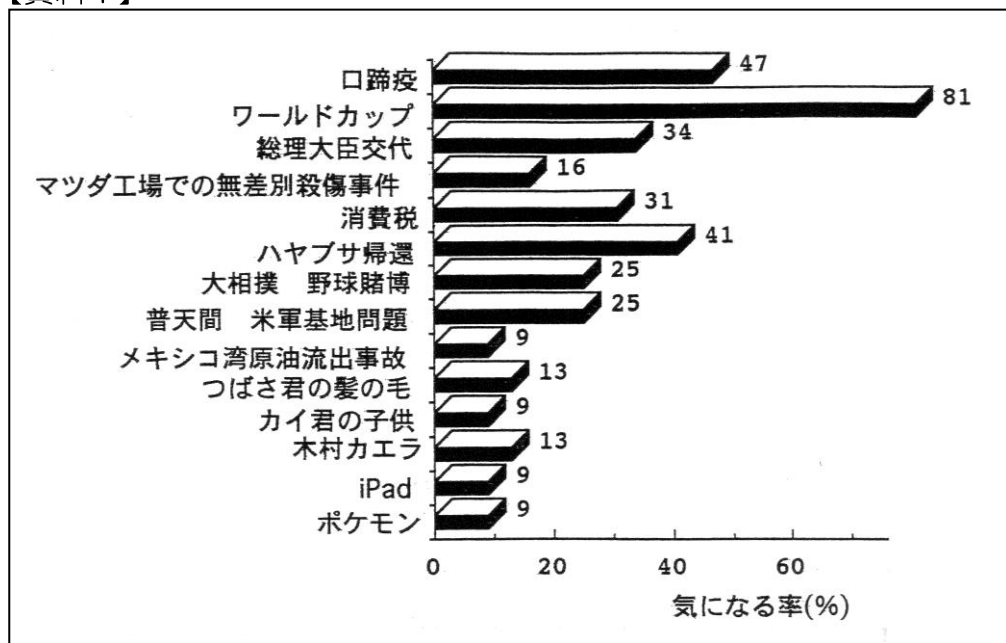
意見交換で積極的に発言するゼミ生に偏りがあり、担当教員から発言を誘導してあげ必要性がある。

時間外に行ったスポーツ大会への 1 年次生の参加者が期待したより少なかった。

■その他

配布資料・アンケート結果については、必要に応じて提出可。

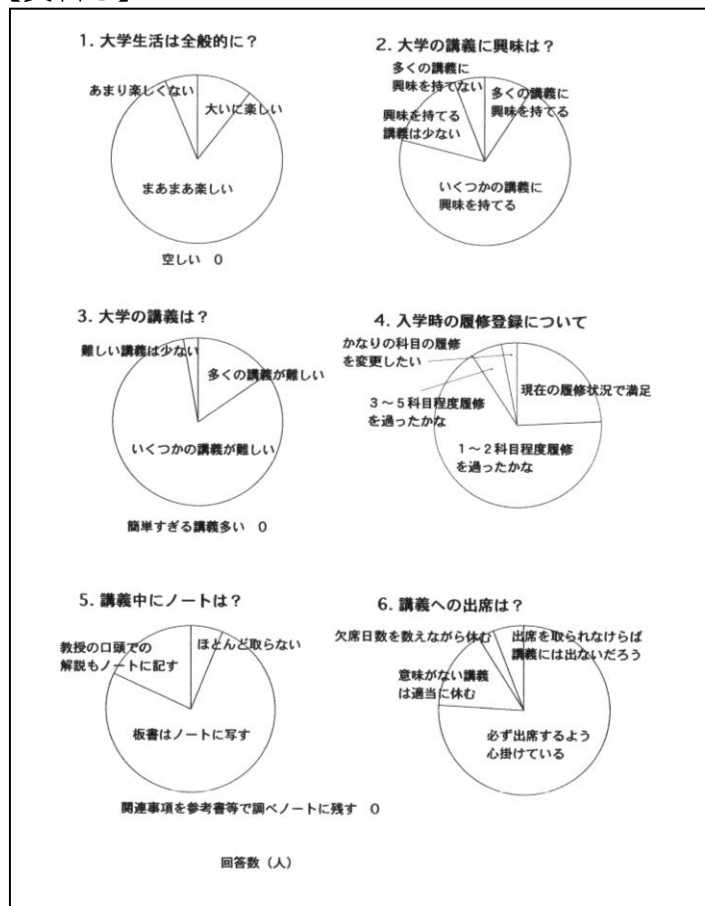
【資料1】



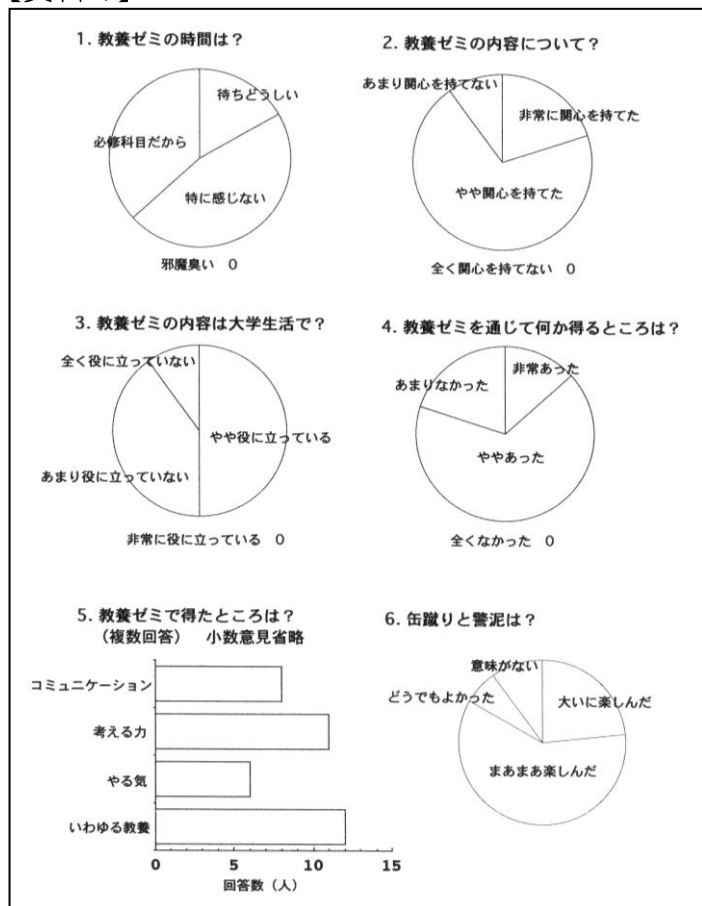
【資料2】

最初に思いついた		次に思いついた	
四面楚歌	3	四面楚歌	
森羅万象		森羅万象	2
一期一会	3	一期一会	3
大器晩成		大器晩成	
因果応報		因果応報	
一石二鳥	3	一石二鳥	2
百発百中		百発百中	
奇想天外	2	一攫千金	
弱肉強食	3	救急隊員	
勇気凛凛		相思相愛	2
一騎当千	2	縮毛矯正	
質実剛健	2	自業自得	
切磋琢磨		八方美人	
言語道断		前言撤回	
夜露死苦		明鏡止水	
疾風迅雷		孤立無援	
臥薪嘗胆		東西南北	
風林火山		国土無双	
泰山北斗		一期一隅	
優柔不断		絶体絶命	
四字熟語		嶺上開花	
半信半疑		花鳥風月	
		一打逆転	
		天衣無縫	
		油断大敵	
		有言実行	
		七転八起	
		粉骨碎身	

【資料3】



【資料4】



平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 生命工学部 生命栄養科学科 】

(初年次教育)：1 年次生 通年必修 2 単位 前期、後期とも水曜 4 時限に実施

①初年次セミナー

講義ノートの取り方、教科書の使い方等

②ゼミナール

(1) 自己紹介、テーマ調査発表(テーマの選択、文献調査、レジメ作成、発表、討論等)、
大学での勉強方法、学生相談等

(2) 基礎科目(化学等)の補習

・前期 5 回(岩本、菊田、平松、村上、木村、淵上、里内)

・後期 5 回(倉掛、山本、井ノ内、石井、石崎、廣井、渡邊)

③野菜栽培実習；養液土耕による野菜栽培

④大学祭；大学祭での展示、調理、食品の試供等

■前期実施内容

4 月 14 日(水) 4 時限 全体ガイダンス 初年次セミナー(倉掛)

15:00 野菜栽培実習：トマト(菊田)

4 月 21 日(水) 4 時限 全体ガイダンス 初年次セミナー(倉掛)

5 月 12 日(水) 4 時限 ゼミナール第 1 回(図書館のオリエンテーション)

5 月 26 日(水) 4 時限 ゼミナール第 2 回

6 月 9 日(水) 4 時限 ゼミナール第 3 回

6 月 23 日(水) 4 時限 ゼミナール第 4 回

7 月 7 日(水) 4 時限 ゼミナール第 5 回

7 月 14 日(水) 4 時限 初年次セミナー

7 月 21 日(水) 4 時限 野菜栽培実習：トマト(菊田)

全体ガイダンス、アンケート、夏休みの課題などの説明

前期は全体ガイダンス 3 回、少人数ゼミをゼミナールと称して 5 回、野菜栽培実習 5 回を行った。ゼミナールについては本質的には各担当者の実施計画で行った。各ゼミとも 1 回目に自己紹介、マナー教育など、2 日目に図書館の見学と利用法の習得について行い 3 回目以降は各ゼミにて実験、演習、テーマ討論、一般のコミュニケーションなど様々なものとなった。野菜栽培実習では調理で使う食材作りと鑑別について学んだ。共同作業することによりコミュニケーション力や協調性を養うことになる。

■前期教養ゼミの成果等

- ・少人数ゼミでは学生と教員、学生同士でコミュニケーションをとることができた。
- ・学生各人の考え、大学での勉強の不安などについて知ることができた。
- ・テーマ学習については自主的に質問する学生もみられた。
- ・挨拶などのマナーが身に付いた。

■問題点、改善点、後期での対応等

- ・問題点としては、前期ということもあり、コミュニケーション、マナー、学生相談などが中心となり、実施案での学習スキルである作文、テーマ発表、テーマ討論などの時間があまり取れなかった。
- ・そこで前期の改善策のひとつとして、作文に関しては読書感想文の提出を夏休みの課題とした。
- ・大学での講義や勉強法がわからなく不安になる学生が多いようであったので、補習や勉強方法に関するスキルの習得が必要であることがわかった。来年はこの点を考慮したい。今年度は後期の教養ゼミで補うこととした。
- ・同一の教育内容を各担当者が足並み揃えて行うのは困難のようであり、ある程度の自由度が必要かと思われる。
- ・学生の評価法についての検討が必要である。

【学生対象の行ったアンケート結果（7月14日実施、全員35人からアンケートを回収した）】

いずれも1から5までの5段階評価（1が最も良く5が最も悪い）

- (1) ゼミナールでの内容に関心を持てたか？
1：9人、2：15人、3：10人、4：0人、5：1人
- (2) 大学での勉強方法に役立ったか？
1：7人、2：15人、3：10人、4：2人、5：1人
- (3) 大学生活に役立ったか？
1：7人、2：10人、3：12人、4：5人、5：1人
- (4) コミュニケーション力は向上したか？
1：9人、2：15人、3：10人、4：0人、5：1人
- (5) 自己表現力（文章表現、発表等）は向上したか？
1：9人、2：9人、3：14人、4：2人、5：1人

■後期実施内容

- ・野菜栽培：適宜5回の実習を行った。
- ・大学祭（10/22-25）の準備、実施
9/22、9/29、10/6、10/13、10/20、10/27
- ・ゼミナール（少人数ゼミ）
後期5回（渡邊、山本、井ノ内、倉掛、石崎、石井）
11/10、11/17、11/24、12/1、12/8、12/15、1/12、1/19、1/26の内、各教員が5回担当

■後期教養ゼミの成果等

前期の反省を踏まえ、確実に成果が上げられたと考えられる。特に、大学祭では学科の上級生との連携が深まったと思われる。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 生命工学部 海洋生物科学科 】

■ゼミ担当者氏名（代表）

三 輪 泰 彦

■ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数： 12 ゼミの学生数： 7～8名

■前期実施内容（各回の内容等）

- 1) 全体ガイダンス：教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験等の補足説明
- 2) 自己紹介（自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成、）
- 3) 図書館の利用法
- 4) 個人面談-学生生活、欠席調査など
- 4) スポーツ大会（新入生歓迎ソフトボール大会）
- 5) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9) 定期試験への心構え
- 10) 水族館見学事前学習
- 11) 水族館見学（玉野海洋博物館）
- 12) 水族館見学レポートの作成

■後期実施内容（各回の内容等）

- 1) 個人面談（前期成績のチェックや学生生活など）
- 2) 大学祭の計画-工程表の作成
- 3) 大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成等
- 4) 大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、海洋生物の採集、金魚の飼育、展示物の作成等
- 5) 大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け等
- 6) 大学祭- 来場者への対応
- 7) 大学祭- かたづけ
- 8) 個人面談-欠席調査など
- 9) 大学祭の反省会
- 10) 定期試験への心構え

■教養ゼミの成果等

- (1) 少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2) 学生生活や教務（履修方法、欠席調査、定期試験への対応など）についてサポートすることができた。
- (3) プロダクトとして大学祭の展示企画（テーマ、展示内容、必要物品等）についてまとめることができた。
- (4) 大学祭を通じて学生同士の団結力を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。
- (5) 大学祭の来場者への応対を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、ほかの人により良くわかってもらうためには、わかってもらうこと、伝えたいことを整理し、相手に示す資料をしっかりと準備することが必要であることを学ぶことができた。
- (6) 大学祭を十分にエンジョイしてもらった。

■問題点、改善策、対応等

- (1) 教養ゼミが時間割の都合で5時限に開講しているが、1～4時限の授業を受けている学生にとっては集中力を維持するのが難しい。
- (2) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では月一金の午後から学生実験が組み込まれているため教員によってはスケジュール合わせができないことがある。
- (3) 周りの学生とうまく打ち解けることができない学生への対応が難しい。
- (4) 学生数が非常に多いのでテーマおよび全体でディスカッションするのが難しいと感じた。
- (5) 大学祭は基本的に全員参加であるが、出欠確認の連絡が不十分であったので次年度からは連絡を徹底する。
- (6) 大学祭やスモールディスカッションにおいて積極的に参加できなかった学生がいたので、取り組むことができる環境づくり（目標をしっかりと理解してもらう、学生の意見や考えを出しやすい雰囲気をつくることなど）を行っていきたい。
- (7) 学生からのアンケート調査を行い、改善点を次年度にフィードバックできるようにする。
- (8) 次年度からは大学祭で3年生による3つの専門コースの展示を企画しており、1年次と3年次の学生の協力体制を実現していくことによって、「学年の縦のつながり」を築いていきたい。

平成 22 年度 教養ゼミ実施状況

【 薬 学 部 】

■担当者氏名（代表）

岡 村 信 幸

■ゼミ数とゼミの学生数

薬学入門Ⅰ（新入生全員）の科目において、教養ゼミを実施している。

■前期実施内容

薬学入門Ⅰ（担当責任者：岡村信幸）

クラス担任（6名）ならびに担当教員（5名）がクラス単位で毎週チュートリアルSGDを行った後、病院ならびに保険薬局での早期体験学習を行う。

※日程表・方略・実施施設は別紙参照

■前期教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・ 学生－教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・ 薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・ 情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・ 能動学習のための動機づけ
- ・ 問題解決能力の向上
- ・ キャリアデザインの醸成
- ・ 挨拶、マナー等の社会性の涵養

■問題点、改善策、後期での対応等

学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。今年度の薬学入門Ⅰの反省点は、後期開講の薬学入門Ⅱで改善する。

薬学入門Ⅰ日程(平成22年度)																			
4月					5月					6月					7月				
							3時限目	4時限目	5時限目			3時限目	4時限目	5時限目			3時限目	4時限目	5時限目
					1	土				1	火	中間試験			1	木	方略6A P3		
					2	日				2	水		2	金					
					3	月	憲法記念日			3	木		3	土					
					4	火	みどりの日			4	金		4	日					
		3時限目	4時限目	5時限目	5	水	こどもの日			5	土			5	月	方略6B P1			
6	火	入学式			6	木	方略2B P3			6	日				6	火	方略6B P2		
7	水				7	金				7	月	方略6A P1			7	水			
8	木	合宿オリエンテーション			8	土	石原先生 方略3		※1, 2限目	8	火	方略6A P2			8	木	方略6B P3		
9	金				9	日				9	水				9	金			
10	土				10	月	方略4A P1			10	木	方略6A P3			10	土	方略6C		※1, 2限目
11	日				11	火	方略4A P2			11	金				11	日			
12	月	方略1 P1			12	水				12	土								
13	火	方略1 P2			13	木	方略4A P3			13	日								
14	水				14	金				14	月	方略6A P1							
15	木	方略1 P3			15	土	開学記念日			15	火	方略6A P2							
16	金				16	日				16	水								
17	土				17	月	方略4B P1			17	木	方略6A P3							
18	日				18	火	方略4B P2			18	金								
19	月	方略2A P1			19	水				19	土								
20	火	方略2A P2			20	木	方略4B P3			20	日								
21	水				21	金				21	月	方略6A P1							
22	木	方略2A P3			22	土	菅先生 方略5		※1, 2限目	22	火	方略6A P2							
23	金				23	日				23	水								
24	土				24	月				24	木	方略6A P3							
25	日				25	火				25	金								
26	月	方略2B P1			26	水				26	土								
27	火	方略2B P2			27	木				27	日								
28	水				28	金				28	月	方略6A P1							
29	木	昭和の日			29	土				29	火	方略6A P2							
30	金				30	日				30	水								
					31	月	中間試験												

薬学入門Ⅰ方略(平成22年度)									
方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考	
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。	4/12～4/15 ※詳細は 日程表参照	1-1	講義	1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	プレナリー セッション室 34203	岡村・田村 (担任)	45	資料配付
	1-2		SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」を 抽出(KJ法)	SGD室	担任	15	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタック シールに書き出す	
	1-3		SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」の 島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作 成する	
	1-4		SGD	今日からできること(今後の行動目標)		担任	30	資料配布:課題(2)	
	1-5		発表	発表・質疑(各5分)	プレナリー セッション室 34203	担任	40		
2	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について 討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを 討議し、概説できる。 4. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割に ついて討議し、概説できる。	4/19～4/22 ※詳細は 日程表参照	2A-1	SGD	シナリオから問題点を抽出(約20分)	SGD室	担任	60	シナリオ配付 問題点をホワイトボードに 書き出す
	2A-2		SGD	抽出した問題点について討議(約40分)	担任			ホワイトボードに意見を 書き出す	
	2A-3		調査 SGD	疑問点について調査及びまとめ、 発表準備	担任		60	テキスト、ノートPC ホワイトボードにまとめる	
	2A-4		発表	発表・討議(各10分)	プレナリー セッション室 34203	担任	40	発表:ホワイトボード	
	【病院ならびに保険薬局における薬剤師の役割】 1. 病院ならびに保険調剤薬局の役割について 調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、 その仕事を概説できる。	4/26～5/6 ※詳細は 日程表参照	2B-1	SGD	シナリオから問題点を抽出(約20分)	SGD室	担任	60	シナリオ配付 問題点をホワイトボードに 書き出す
			2B-2	SGD	抽出した問題点について討議(約40分)		担任		ホワイトボードに意見を 書き出す
			2B-3	調査 SGD	疑問点について調査及びまとめ、 発表準備		担任	60	テキスト、ノートPC ホワイトボードにまとめる
			2B-4	発表	発表・討議(各10分)	プレナリー セッション室 34203	担任	40	発表:ホワイトボード
			2B-5	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ	SGD室	担任	20	ホワイトボードに意見を 書き出す
	【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。								

2		自己学習			調査課題: 見学施設への質問内容や専門用語について					
3	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月8日(土) 1～2時限	3	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室	石原 (担任)	180	レポート提出	
4	【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。 2. 見学施設におけるマナーならびに 注意点を討議する。 3. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに 質問内容について討議する。	5/10～5/13 ※詳細は 日程表参照	4A-1	調査 SGD	質問内容についてまとめ、発表準備	SGD室	担任	60	テキスト、ノートPC ホワイトボードにまとめる	
			4A-2	発表	発表(5分)・討議(10分)	プレナリー セッション室 34203	担任	60	発表: ホワイトボード	
			4A-3	SGD	見学施設への質問内容を再討議	SGD室	担任	60	テキスト、ノートPC	
		自己学習			調査課題: 見学マナーや見学施設までの交通手段 ※交通手段は公共交通機関に限る					
		5/17～5/20 ※詳細は 日程表参照	4B-1	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の 仕方について討議	SGD室	担任	30	ホワイトボードに まとめる	
			4B-2	発表	発表(3分)・討議(5分)	プレナリー セッション室 34203	担任	40	発表: ホワイトボード	
			4B-3	DVD	早期体験学習に関する注意事項		岡村 (担任)	40		
			4B-4	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方を 再討議	SGD室	担任	20		
			4B-5	SGD	質問票の作成	SGD室	担任	30	質問票の雛形配付 自己紹介票配付 ノートPC USBメモリー持参 ※担任が質問票を点検	
				提出 点検	質問票を担任に提出	SGD室	担任			
		締切5/24	自己紹介票の 提出		自己紹介票を担任に提出		※担任は質問票と自己紹介票を 5/24までに施設へFAX			
		5/24～5/27	事前連絡		見学施設(指導薬剤師)へ連絡し、事前に訪問時間等を調整					
4		自己学習			調査課題: 質問内容や専門用語について充分学習しておく					
5	【総括】 行動変容のための役立ち感と幸せに ついて気づきの学習をする。	5月22日(土) 1～2時限	5	講義	1. キャリアデザイン ～幸せな人生～ 2. 感じるココロと伝えるスキル ～患者さんやご家族と薬剤師の関係～	研修室	菅 (担任)	180		
6	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療 スタッフの業務を見聞し、その重要性に ついて自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を 見聞し、その重要性について意見を まとめ、発表する。	6/7～7/1 ※詳細は 日程表参照	6A	見学	体験学習	病院	指導 薬剤師	60～ 240		
						薬局		60～ 240		
		自己学習			討議・まとめ・発表準備					
		7/6～7/8	6B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	SGD室	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収	
		7月10日(土) 1～2時限	6C	発表	発表・討議(各5分)	※1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)	